

(一般質問)

質問日		令和 6 年 12 月 10 日 (火)		質問方式	分割方式		
質問順位	6	会派名	自由民主党浜松	議席番号	13	氏名	中野 和幸
表 題		質 問 内 容					答弁者の職名
1 弁天島海浜公園の活性化のために		弁天島海浜公園は弁天島駅から徒歩 5 分、浜名湖に面した東西500mの浜名湖と触れ合える公園である。 現在、民間活力の導入による弁天島海浜公園再整備事業の議論が再開された。 以下、本市の考えを伺う。					齊田観光・ブランド振興担当部長 〃 石田危機管理監 齊田観光・ブランド振興担当部長
(1) 弁天島海浜公園再整備事業について		(1) 弁天島海浜公園再整備事業について、本年 2 月議会において、優先交渉権者である弁天島海浜公園再整備事業共同事業体との議論を再開する旨の報告があったが、現在までの進捗状況及び今後の見通し等について伺う。					
(2) シンボルタワーの今後について		(2) 弁天島海浜公園南側の湖上にあるシンボルタワーは、1973年に舞阪町観光協会が建設し、2004年に浜松市へ寄贈され、今日まで約50年間、表浜名湖の代表的な風景として広く定着している。この美しい風景は、今や地域のかげがえのない財産であり、後世に残すべきものであると考えるが、湖上のシンボルタワーの今後について市としてどのように考えるのか伺う。					
(3) 津波対策について		(3) 浜名湖の玄関口として、住民のみならず観光客が多く訪れる舞阪・弁天島地区であるが、本年 1 月の能登半島地震の発生に加え、8 月には南海トラフ地震臨時情報が発表されたこともあり、太平洋につながる今切口から正面に位置する弁天島地域において、住民の津波等の災害に対する不安が高まっている。 そこで、当地域の津波対策について、市の現状を伺う。					
(4) 災害発生時の避難行動等の告知について		(4) 地域での災害発生時の避難行動等については、その地域を訪れた観光客にも周知されるべきと考える。日光市では観光地を訪れた観光客等に対し、災害発生時の避難行動等を告知するリーフレットを作成し、配布していると聞いている。 弁天島海浜公園のある舞阪・弁天島地区も含めてしっかりと告知する取組が必要であると考えているが、市の考えを伺う。					
2 浜名湖の未来のために		浜名湖は、アサリをはじめ水産資源の漁獲量が年々減少しているが、その減少要因は様々で、明確な対策が分からない状態であり、観光業界にも影響している。 漁協や静岡県、湖西市など関係組織が多くある中で、今後の浜名湖の水産業振興に向けて、以下、本市の考えを伺う。					清水農林水産担当部長
(1) ブルーカーボン活用の方向性		(1) 本年 2 月議会における一般質問の際、浜名湖の水産資源確保に向けた取組について答弁いただいたが、アサリ					

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
について (2) 新たな組織について	の減少の要因の一つとして、湖内の水温や塩分濃度の上昇が挙げられていた。 これには、地球温暖化の影響があると思われる。現在、世界規模でカーボンニュートラルの取組が推進されており、農林水産分野においても「みどりの食料システム戦略」の策定や取組例が紹介されているが、水産業の取組の一つには「海藻類によるブルーカーボンの推進」が挙げられている。ブルーカーボンは、二酸化炭素の吸収による効果と合わせて、アサリの育成にもつながる取組であると期待する。 そこで、本市におけるブルーカーボン活用の方向性について伺う。 (2) 浜名湖は河川管理上、都田川水系であり、静岡県が管轄し、湖岸は浜松市と湖西市に囲まれ、全域にわたって浜名漁協の漁業権が設定されていることから、その管理が複雑になっている。「船頭多くして船山に上る」ということわざがあるが、浜名湖の水産資源や観光を守るために、浜名湖に近い政令指定都市の本市に浜名湖課をつくり、浜名湖全般に関しての相談を受け、横のつながりを取り、課題を県や湖西市に投げかけ、浜松市が現状や要望を把握していく事が必要と考えるが、市の考えを伺う。	田中総務部長
3 高齢社会の不安解消のために (1) 日常生活に不安を抱える高齢者の増加の課題について (2) 高齢者の孤立対策について	浜松市の65歳以上の高齢者人口は、令和6年10月1日現在、約22万7千人で、高齢化率は28.9%となっている。 高齢者に対する詐欺、消費者被害等の事件があり、最近では監禁・殺人事件などの話題を耳にする。 各種手続きがスマートフォン等により簡単にできる便利な時代になったが、高齢者は、スマートフォンなどのデジタルツールを使いこなせない方が多い状況であると考えられる。また、足腰は弱っているが、運転免許証も返納していることが多いため、買い物等にも一人では行けないなど高齢化社会は問題が山積みとなっている。 そこで、以下、本市の考えを伺う。 (1) 本市に居住する65歳以上の高齢者の約6割が高齢者のみの世帯となっており、日常生活等に不安を抱える高齢者が増加していると考えるが、市として課題をどのように捉えているか伺う。 (2) 高齢者は、身体機能や認知機能の低下等により、閉じこもりがちとなり、孤立してしまう人も少なくない。地域の人との交流がなくなると、支援が必要な状態になっても周囲が気づかず重症化し、問題が起きてから発見されることも多くなる。高齢者の孤立に対してどのような対策を講じているか伺う。	小松健康福祉部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(3) 経済的な理由により介護サービスや医療を控える高齢者への支援について	(3) 年金収入のみで生活している高齢者が、経済的な理由により必要な介護サービスや医療を控えていることが想定されるが、そのような高齢者に対してどのように支援していくのか伺う。	
4 ケアマネジャーの確保のために (1) ケアマネジャーの現状における課題について (2) ケアマネジャーの業務効率化及び負担軽減の取組みについて (3) 複雑で多くの課題を抱えた方に対するケアマネジャーの負担について	要介護状態となった場合において、住み慣れた地域で安心して暮らしていく環境を整備していく観点から、居宅介護支援事業所やそこで従事する介護支援専門員（ケアマネジャー）の役割が重要となる。 ケアマネジャーは、ケアプランの作成や市町村・介護サービス事業者等との連絡調整を行う大切な役割を担っている。 しかし、令和5年3月に静岡県が実施した介護支援専門員実態調査の結果によると、県内のケアマネジャーの年齢は50代が最も多く、全体の60%以上が50歳以上となっており、若手の参入が進んでいない。 そこで、以下、本市の考えを伺う。 (1) 高齢化が進み要介護者数も増加していく中、ケアマネジャーも高年齢化が進み人数も徐々に減少しており将来的な担い手不足も見込まれるが、現状における課題について伺う。 (2) 高年齢化による担い手不足が進む中、本市のケアマネジャーが複雑多様化する業務に対処していくため、市として、ケアマネジャーの業務効率化や負担軽減といった課題にどのように対応していくのか考えを伺う。 (3) 複雑で多くの課題を抱えた方など、ケアマネジャーだけでは対処できない場合もあると聞いている。そういったケアマネジャーへの負担に対して、市としてどのように取り組んでいるか伺う。	小松健康福祉部長
5 篠原地区道の駅の進捗状況	遠州灘海浜公園篠原地区の面積は、約36.2haであり、スポーツエリアとして位置づけられ、現在は浜松市総合水泳場（ToBiO）が立地している。 県では、遠州灘海浜公園篠原地区の整備に向けた基本計画が策定され、メイン球場設置の検討が行われている状況である。 本市では、同地区における交流人口のさらなる増加や、県西部及び県下全域のスポーツ振興、新たな賑わい創出などの波及効果を広げていくため、令和5年度から道の駅を設置する場合の整備候補エリアや導入機能等について検討しているが、道の駅の進捗状況を伺う。	工藤企画調整部長